



たいしも通信

年の初めに防衛省HPを閲覧していると、「防衛省サイバーコンテストの開催について」という見出しが目飛び込んできました。概ね平穩にスタートした令和7年も早1カ月が経ちましたが、いつものように、少し違った観点、今回は自衛隊のサイバー関連情報を集めて、防衛関連ニュース第4弾をお送りします。

◆防衛省サイバーコンテスト

コンテストの開催日は令和7年2月2日ですから、拙稿が皆様に届く頃には既に終わっていることと思います。競技内容はオンラインによるCTF(キャプチャー・ザ・フラッグ)形式で、これは専門知識や技術を駆使し、隠されているフラッグ(答え)を見つけ出し、時間内に獲得した合計点数を競うハッキングコンテストを指します。今回はクイズ形式で、他にはネットワーク内の疑似的な攻防戦も行ったりすることもありますが、防衛相の公用PCをハッキングしてこい、などという物騒なものはないようです。

◆そもそもハッキング・サイバーとは

「ハッキング」とは、もとは英語のhackで、「切り刻む、耕す」などの意味から、現在では高度な知識・技能を用いて、PCやネットワークの解析・改造・再構築などを行うことを指します。他人のPCからデータを窃取する等の不正行為もハッキングと呼べますが、それらは一般的にクラッキングと呼んで区別しています。しかし悪用する者もまた自らをハッカーと称し、映画や小説でも広く扱われたため、ハッカーとはこれらの総称のような認識が広まってしまい、現在でも同一視されることが多いようです。そこで悪いことをしない側の人達を自他共にホワイトハッカーと呼称する場合もあります。

次に「サイバー」ですが、これは情報技術やデジタルネットワ

ークに関連したものを指す接頭語のことで、古代ギリシャ語で「舵を取る、導く」から派生した「サイバネティクス(制御理論)」から来ており、現在ではPC、インターネット、仮想現実などのデジタル技術やその文化、環境に関連する事象を広く指します。

◆自衛隊サイバー防衛隊

自衛隊にも「サイバー」がつく組織があります。それは「自衛隊サイバー防衛隊」で、市ヶ谷駐屯地内に所在し、サイバー攻撃への対処・関連部隊への訓練支援を行う防衛大臣直轄の部隊です。当初は自衛隊初の常設統合部隊として、2008年(平成20年)「自衛隊指揮通信システム隊」として発足、隊員は陸・海・空自衛官および事務官・技官をもって編成されていました。その後2014年(平成26年)にはサイバー防衛隊を新編、そして2022年(令和4年)、サイバー攻撃からのシステム防護機能強化のため、自衛隊指揮通信システム隊を廃止して再編成され、現在に至っています。

◆防衛機密へのサイバー攻撃

2023年(令和5年)、米紙ワシントン・ポストは、中国軍のハッカーが防衛機密を扱う日本政府のPCシステムに侵入していたと報じました。NSA(米国家安全保障局)が2020年(令和2年)に発見し、日本政府に不正アクセスの重大性を警告。この報道を受け、当時の防衛相は記者会見で、「防衛省保有の秘密情報が漏えいした事実は確認していない」と述べ、侵入があったかどうかについても言及を避けています。

▼編集後記▲▲

今から数十年前、民間の大手PC会社が学生対象のハッキングコンテストを企画しましたが、当時、子供に悪事を競わせるとは何か、と中止に追い込まれました。情弱な大人が若者の未来と、何より今日の情弱な日本を作ったと悔やまれてなりません。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。